

# 酒田コミュニケーションポート（仮称） 整備基本計画

概要版



知のアリーナ  
(地)

～酒田の新しい船出がここから始まる～

平成28年7月に事業予定者に選定された西松建設株の提案プランのイメージ図であり、今後の事業計画により変更となります。

山形県酒田市

## 計画の目的

酒田駅周辺地区のまちづくりの基本理念（平成26年度策定）や、整備計画方針（平成27年度策定）で定める目指すべき酒田コミュニケーションポート（仮称）（以下「酒田コミュニケーションポート」という。）の具現化のため、必要な機能やサービスのあり方等について定めるものです。

計画期間は定めていませんが、施設が完成したら基本計画の役割も終わりということではありません。目指そうとしているまちづくりは、施設が完成したら即座に実現するものではなく、完成後も絶え間ない試みを

継続していかなければ、達成できません。

また、少子高齢化・人口減少社会の進展や技術革新等により、将来に渡って市民ニーズは益々多様化し、その時代時代で、酒田コミュニケーションポートの役割に変化が求められ、それに柔軟に対応しながら、目的を見失わず、市民に愛される施設として持続していく必要もあります。

本計画は、そのための羅針盤としての役割を果たし、また、将来の世代への約束・宣言書となるものです。

### ○酒田駅周辺地区のまちづくりの基本理念（H26年度策定のグランドデザインから）

観光起点+市民の憩いの場

※酒田駅周辺地区とは、酒田駅を中心とした約9.0haの区域としています。

### ○酒田コミュニケーションポート（H27年度策定の整備計画方針から）

ライブラリーセンター（カフェを含む）、観光情報センター、広場、駐車場及びバスベイからなる公共施設の総称です。

人と人（情報、まち）を繋ぎ、多様なコミュニケーションを創出し、新しい風・パワーを生み続けるハブ拠点として活性化を目指そうとするものです。

ポートには、湊町酒田のイメージと、その場所から街に人々が回遊する（こぎ出す）イメージを込めています。

## 計画の位置づけ

まちづくり全体に  
関わる計画



酒田市のまちづくりの課題を解決し、目指す将来の都市像の実現に資するため、酒田コミュニケーションポートの整備・運営を進めていきます。

◎酒田市総合計画

◎酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

関連する  
主な個別計画



各分野の施策と連携しながら、酒田コミュニケーションポートの魅力づくりを行っていきます。

◎酒田市中心市街地活性化基本計画

◎酒田市教育振興基本計画

◎酒田市生涯学習推進計画

◎酒田市子ども読書活動推進計画

◎酒田市子ども・子育て支援事業計画

◎酒田市中長期観光戦略

◎酒田市地域公共交通網形成計画

◎酒田市公共施設適正化基本計画



# 知のアリーナ (地)

～ ヒト・モノ・コトが行き交い、多様なコミュニケーションが創出され、  
知(地) 的好奇心がインスパイア<sup>※</sup>されるみんなの居場所 ～

- 市民の暮らしの質の向上
- 酒田の価値向上

※インスパイアとは、奮い立たせる、駆り立てるという意味

## 基本方針

### 学び、成長する場

- ▶地域を知り、学び、好きになる
- ▶市民の知的好奇心に応え、支援し、暮らしを豊かにする

### 交流の場

- ▶日常のライフシーンに応える
- ▶市民も、観光客も寛ぎ、交わる

### 情報発信の場

- ▶庄内地方、酒田らしさを積極的に発信する
- ▶明確な情報が拡散、口コミで広がる

### 子育ての場

- ▶親子で気兼ねなく、安心し、利用できる

## アクションプラン (イメージ)

### 「知」のライブパフォーマンス

- 東北公益文科大学まちなか講座
- 日本海総合病院ヘルス・メディカル講座
- 著作者や酒田ゆかり人のミニトーク
- ライブラリアンによるお薦め本紹介
- 慶応義塾大学先端生命科学研究所まちなか講座 など

### 「地」のライブパフォーマンス

- 駅前マルシェ
- 食べマルシェ (酒田フレンチ・酒田のラーメン)
- 各地伝統芸能ストリートライブ
- ジオパーク、日本遺産関係まちなか講座 など

※本アクションプランは、あくまで現時点のイメージであり確定したものではありません。実際の実施にあたって、今後、関係機関等との協議が必要となるものです。

# 機能別サービス・整備方針



ライブラリーセンター [3,000㎡]

## サービス、整備方針

- 1 学びたい、知りたいに応え、地域課題の解決への支援を担う知の拠点**
  - 資料の収集技術の向上、各種講座やレファレンスサービス<sup>※1</sup>の充実。レファレンス能力の向上、レファレンス専用デスクの配置
  - 調査・研究等に資するオンライン・データベース<sup>※2</sup>の導入・活用の検討
  - 専門機関や市内の人材等、ニーズに合った情報提供
  - 地域・市民の課題解決のために、関係機関と協力しての、まちづくり・ひとづくりの支援
  - 館外、地域に飛び出でのサービスの提供
- 2 若者から高齢者までのあらゆる層の市民が集い、利用し、活動する場所づくり**
  - 学習室やグループ討議・活動が行えるスペースの設置
  - 持ち込みパソコンやモバイル端末を利用できるスペース、Wi-Fi環境の整備
  - 子育て世代、高齢者、若者、ビジネスマン等、それぞれの利用層・時間軸に応じた講座等の事業展開
  - 本に囲まれた空間を活用し、出会いと交流の舞台としての積極的な市民への開放
  - 曜日、時間帯、来館者数等に応じて、臨機応変に可動するハイブリット型の施設運営
  - 作家のトークショーや本にまつわるイベント等の実施
- 3 市民ニーズ等に的確に対応していくライブラリアン<sup>※3</sup>の育成**
  - 社会の変化や市民ニーズに的確に対応し、常にチャレンジするライブラリアンの育成
  - 市民に顔が見え、信頼してもらえるライブラリアン
  - 能力開発のための研修機会の充実
- 4 自分のスタイルにあった読書空間、居心地の良い空間の提供**
  - 他の機能間との連携とあわせて、自分にあった場所を見つけ、利用できる空間の効果的な配置
  - 蓋付きの飲みものの持ち込み可能
  - バスや電車の待ち合わせとしての利用
- 5 地域を知り、好きになる郷土愛を育むサービス**
  - 郷土・地域資料の収集や情報発信の積極的な展開
  - 展示を通しての多様な情報提供の実施
  - 光丘文庫の所蔵資料を、展示等により積極的に紹介。所蔵資料に関する照会や取次ぎの実施
  - 地域資料のデジタル化による、調査研究、観光情報発信や学校教育の教材、本市のブランディング<sup>※4</sup>等に資する取組みの検討

※1 レファレンスサービスとは、知りたい資料や情報を、図書・雑誌・新聞・電子情報などから探すための案内をして、資料提供や情報提示により調べものの手助けをするサービスである。

※2 オンライン・データベースとは、インターネットを利用してデータの検索を行えるデータベースサービスのことをいう。商用データベースの形態のひとつ。専門情報を扱っているサービスと一般向けのサービスがある。

※3 ライブラリアンとは、図書館員の英訳である。

※4 ブランディングとは、経営・販売上の戦略として、ブランドの構築や管理を行うことをいう。会社・商品・サービスなどについて、他と明確に差別化できる個性（イメージ・信頼感・高級感など）をつくりあげる。

## 6 児童・子育て世代へのサービスの充実

- 子ども読書活動推進計画に基づいて実施してきた取組みの推進
- 児童の調べ学習に対応できる資料・情報の充実
- 児童が本とふれあうプログラムやイベントの展開
- 子育て支援情報、子どもの読書環境の充実
- 親子で気兼ねなく本を読んだり、情報交換できる環境づくり
- 授乳、おむつ交換の場所の設置
- 読み聞かせできる専用スペースの設置
- 読み聞かせ等の市民ボランティアへの参加の推進

## 7 酒田の玄関口としての案内情報の強化

- 図書館の地域資料やレファレンス機能の観光案内への活用
- 観光情報センターと隣接するエリアへの観光に関する地域資料、雑誌、ガイドブック等の配架
- 季節や時事、郷土の行事等に応じたテーマ展示の積極的な実施
- 地域資料のデジタル化による、サイネージ<sup>※5</sup>やモバイル端末での活用
- ソーシャルネットワーキングサービス<sup>※6</sup>の積極的な活用による情報発信

## 8 学校図書館との連携の強化

- 市内の小学校、中学校、高等学校との連携、学校図書館の支援
- 学校図書館運営をサポートできる人材の養成
- 児童・生徒図書委員活動への支援

## 9 分館、東北公益文科大学等との連携の強化

- 分館との間の資料の流通の強化、新しい図書の定期的な供給
- 東北公益文科大学図書館との連携、大学が専門とする分野の資料やレファレンスの活用
- 図書館ボランティアと連携したサービスの実施
- 県立図書館、県内市町村立図書館及び国立国会図書館等との連携
- 他の社会教育施設、関係行政機関等との連携
- 再開発区域内の民間施設との連携

## 10 高齢者・障がい者サービス

- 拡大読書器の設置
- 音声や触知図、見やすい配色等によるわかりやすいサインや案内及び筆談用具、拡大鏡の設置
- 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）に基づくサービスの充実

## 11 閲覧・貸出サービス

- 予約資料やリクエスト資料、貸出上位ランキング等、貸出に関する情報発信の充実
- オンライン・データベース等、紙媒体だけでは得られない情報提供の充実
- ICシステムによる、貸出・返却のセルフ化の推進

## 12 ICTサービス

- 蔵書検索用のパソコン、インターネット接続可能な端末の充実
- 費用対効果を見極めながらの電子書籍導入の検討

## 13 その他

- 文房具関係物販の可能性の検討
- 本が探しやすい、手に取りたくなる配架、見せ方の工夫

### 資料収集方針

## 1 計画蔵書数

- 計画蔵書数の目標は、約300,000冊
- 開架約20万冊、閉架約10万冊を基本に、居心地の良い空間づくりや企画展示スペース等とのバランスへの配慮
- 開架は、日本十進分類法に基づく資料の分かりやすい配架

※5 サイネージ（デジタルサイネージ）とは、映像表示装置とデジタル技術を用いた広告媒体のことをいう。

※6 ソーシャルネットワーキングサービスとは、サービスに登録している会員が互いに情報を交換できるインターネット上のサービスのことである。

## 2 資料収集のポイント

### (1) 市民の財産となる地域の資料・情報の収集

- 地域の歴史・文化・産業・教育等に留意しての収集。行政機関や民間団体、個人が発行するものについても、幅広く収集
- 画像、映像、古地図、絵葉書等の可能な限りの収集
- 本市との交流都市や観光案内に資する資料、ガイドブック等の積極的な収集
- 鳥海山・飛島ジオパークに関連する資料の収集
- 本市ゆかりの著名人に関する資料の収集

### (2) 多様な市民ニーズに応える、新鮮で豊富な資料・情報の偏りない収集

- 一般書のほか、専門書、実用書、参考図書等にわたり、常に最新の情報の提供(収集)
- 生活実用書、趣味、教養に関する資料のほか、子育て、医療、介護等の資料・情報の充実
- ビジネスやまちづくり関係の資料・情報の充実
- 国際交流、インバウンド対応、英語教育の強化等に対応するため、英語資料の充実

### (3) 青少年、20代若者向け資料の充実

- スポーツ、ファッション、音楽、芸術等の資料の充実
- 調べ学習に必要な資料や、学校図書館の蔵書を補完するような資料の収集
- 将来の進路を考えるうえで参考になる資料の収集
- 漫画については、定評のあるもの、保存に耐えるもの等の方針を定めた収集

### (4) 新聞・雑誌の充実

- 新聞は、主要全国紙から東北地方・県内の地方紙等、幅広い収集。外国語新聞の収集
- 小学生新聞や中高生新聞の収集の検討。その他の専門新聞の充実
- 雑誌は、各世代各分野にわたり、一般的なものから専門的なもの、地域性のあるものまでの幅広い収集。地域限定の情報誌やミニコミ誌などの積極的な収集

### (5) 一般図書

- 入門的・基礎的な資料から生活に役立つ実用的・専門的な資料までの幅広い収集
- 日常的な調べものや、調査・研究に資する参考図書の収集

### (6) 乳幼児・児童図書

- 偏りない年齢層ごとの資料の収集
- 絵本、紙芝居、読み物については、定評のあるものから新しい作品までの幅広い収集
- 調べ学習に資する資料、参考図書の積極的な収集

### (7) 高齢者・障がい者向け資料

- 大活字本等の読みやすい資料の収集
- 医療、健康、福祉、年金、余暇など、シニアニーズに応じた資料の収集
- 視覚的な図鑑・写真集などの収集
- 障がい者向けの電子資料の有用性への配慮

### (8) 視聴覚資料

- 技術革新に留意しての収集

## 3 資料の保存

- 保存期間を設けるもの、利用頻度や劣化状態等考慮して適宜除籍するもの、永年保存するもの、に分けての適切な保存
- 新聞・雑誌について、限られた保存スペースを踏まえ、庄内地区の図書館と調整・役割分担しながらの保存

## カフェ [200㎡]

- 市民が気軽に立ち寄れる雰囲気と価格・メニューの設定
- 観光客・来街者も利用するカフェとして、地域食材や特色あるメニューの検討
- ワークショップ講座やイベント等を、他の施設機能と連携しながらの展開
- 夜にアルコール提供を可能とするなど、時間帯、利用者層の違いに応じたサービスの提供
- テイクアウトサービスの導入
- 開架図書の持込みや、飲食しながら読書できる場所づくり



## 観光情報センター [100㎡]

- 1 観光コンシェルジュの配置、養成**
  - 酒田の魅力、観光に精通した観光コンシェルジュの配置
  - 観光客と対面で話しができる環境の整備
  - 市内の観光情報の一元化、ネットワーク構築に努め、まち歩きルートのオーダーメイドサービスの提供
  - 他の機能や民間施設との連携による効果的なサービス提供の検討
- 2 市民団体等との連携**
  - (一社)酒田観光物産協会、観光ガイド協会、酒田おもてなし隊(東北公益文科大学)、湊町さかた探検隊等、既存団体等との連携した運営の推進
- 3 情報発信機能の強化**
  - 観光モデルルート、まちなか観光(まち歩き)、イベント等の情報にオリジナル・ストーリーを付加する等、魅力ある発信による回遊の促進
  - 広域交流圏内の情報の積極的な発信
  - ライブラリーセンターとの連携による、本市の観光関連資料や郷土資料の提供等のサービスの実施
  - 山鉾、傘福、黒森歌舞伎等、旬に応じた伝統芸能や工芸品の展示
  - ソーシャルネットワーキングサービスによる情報発信を強化。多言語による発信の検討
  - 広場と連携した観光イベントの実施
- 4 土産品販売の検討**
  - 厳選、セレクト化した土産品の販売の検討
- 5 インバウンドへの対応**
  - 英語が話せるスタッフの配置による、外国人観光案内所(カテゴリー1~2)の併設
  - 外国人観光客に需要の高いWi-Fi環境の整備
  - 外国人向け観光ガイドの充実の検討
- 6 その他**
  - 観光客用コインロッカー設置の検討
  - 観光用自転車設置の検討

## 広場 [1,000㎡]

- 酒田の玄関口(まちのエントランス空間)として、街路樹等の歩道空間とあわせて、ふさわしいランドスケープ(景観)の形成
- 市民のハレの場、多彩なイベントの場として積極的に活用してもらえるような環境整備、広報の実施
- ライブラリーセンターの読み聞かせ会をするなど、他の施設機能との積極的な連携
- 市民の日常の生活空間として、あらゆる世代が、憩える、潤いある屋外空間の整備。一部の芝生化の検討

## 駐車場 [200台]

- より多くの市民から、来館してもらうための回転効率を考慮した利用基準の設定
- 利用基準について、最初の2時間までは一律無料をイメージしての検討
- 駅前商店街との連携による共通サービス券発行等の検討
- 鉄道利用者の促進を図るため、JR利用者用の割引制度の検討
- 大規模なイベント開催時などには、周辺民間運営駐車場の活用の検討
- EV充電器整備の検討

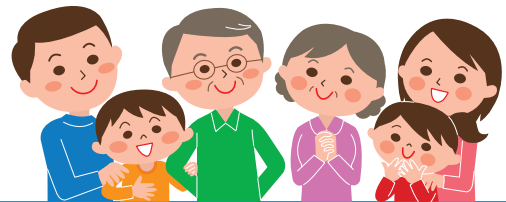
## バスベイ

- 酒田駅周辺のバス停の集約を図り、視認性を高め、バス事業者との協議を踏まえながら、全ての駅前経由路線の当該地への乗り入れの検討
- 安全で快適にバスを待つことができる環境づくりの推進
- 観光情報センターなど、施設内に誰でも見やすい時刻表、案内表の整備
- 自動車を持たない方のアクセス改善。観光客向けの二次交通対策の検討

## その他

- 施設利用者用の駐輪場の整備
- 3階屋上の活用については、費用対効果を見極めつつ、今後、市民意見等を踏まえながらの検討
- 年に一度、酒田コミュニケーションポートまつり(仮称)の開催

# 施設計画



### 施設全体の構成・計画に対する留意事項

- 管理運営スペースを利用者スペースと明確に区分し、効率の良い配置を構成します
- ライブラリーセンターの資料保全のため、持出し防止ゲートによって明確な管理区分を設定します
- ゲート設置個所付近にカウンターを設けるなど、利用者目線での利便性に配慮します
- 利用者目線を第一に、駅との動線、施設間の動線、移動しやすさに配慮します
- 機能間の連携やすみ分けに配慮した、わかりやすいゾーニングとします
- 民間施設を含めた再開発エリア全体での連携を意識した計画とします
- 自然エネルギーの有効活用や、低環境負荷材料の使用に配慮します
- 施設のライフサイクルを考慮し、建設コストと維持コストの最適化を図ります
- 酒田の玄関口としての魅力及び存在感がある外観・内観のデザインとします
- 各機能間の動線上の雨対策(シェルター)に配慮します
- 気候性(冬季の風雪等)に配慮します
- 誰もが支障なく、利用しやすいユニバーサルデザインに配慮します

### 地域産業支援基本方針及び木材利用促進基本方針に基づく整備の推進

地域産業支援基本方針(平成28年4月策定)及び木材利用促進基本方針(平成28年12月策定)に基づき、地域産業の振興を図る視点から、地元産材の活用などに努めていきます。



### ライブラリーセンター

- 観光情報、子ども向けサービス、新聞・雑誌、生活実用系のポピュラーな資料等は1階、人文科学・自然科学・社会科学系各資料や、参考資料等、学習や調査研究のための資料及び学習のためのスペースは、2階に設けます
- 書架間隔は1,800 mmを基準とし、柱間隔は整数倍を基本とします
- 書架の高さは、子ども用は1.5m程度、大人用は2.1m程度を基本とします
- カウンターは、利用者の出入りが確認しやすく、持出し防止ゲートに近く、バックヤードとの連携が図りやすい位置へ配置します
- 資料を探しやすいように書架をレイアウトします
- 資料に対応した適切な形態の閲覧席を用意します
- 高窓や吹抜けによって、自然光で明るい館内をつくります
- 返却本の返却処理、仕分け、搬送・配架の作業や、新刊本の受け入れ作業、館外への貸出作業などがスムーズに行える動線を設定します
- ブックポストは、利用者が休館日や開館時間外に資料が返却でき、自動車でアクセスしやすい位置に設け、バックヤード内の作業スペースと比較的短い動線で結べる位置を配慮します
- 閉架書庫は、出納時間を短縮するために、カウンターから比較的近い位置に設定します
- 各種帳票類、利用案内パンフ、紙類等を整理して収納できるスペースを用意します

### カフェ

- 道路や広場に面し、持出し防止ゲート内からも、外からも利用できる計画を検討します

### 観光情報センター

- 駅舎からの来街者を出迎える窓口として、駅側に向けて配置します
- カウンターは施設入口に近く、利用者にとってわかりやすい位置に配慮します

### 広場

- 一部の緑化を検討します
- イベント開催時の電源及び給排水設備を確保します

### 駐車場

- 安全で使いやすく、気候性にも配慮した計画とします
- 身障者用の駐車場を確保します

### バスベイ

- バスの待ち時間を快適に過ごせるよう、周辺環境に配慮します
- 視認性が高く、わかりやすい配置とします

### 管理系諸室

- 職員の休憩スペースは、職員が交代で昼食をとることを考慮します
- 職員用の更衣室を男女別に設置します
- 荷物の搬入口、荷捌き場、廃棄物置き場、清掃用具置き場、倉庫等を適切に配置します

# 管理運営計画

## 開館時間及び休館日

### ライブラリーセンター

- 多様な世代、層が集えるよう、現在の中央図書館の開館時間を延長します
- 週一回程度の休館日を設定します
- ICシステムの効果的な運用を図り、図書整理期間を短縮します

### カフェ

- 開館時間はライブラリーセンターに、休業日は観光情報センターに合わせ、相乗効果を図ります

### 観光情報センター

- 開館時間は、他市を参考に設定します
- 休業日は、本市の観光需要の状況、他市を参考に設定します
- 開館時間以外の来館者への対応について、ライブラリーセンターのカウンターや隣接する民間施設でも案内ができるよう連携方法を検討します

### 広場

- 積極的な活用促進（イベントへの貸出し等）を基本とし、貸出時間は、ライブラリーセンターに合わせます
- にぎわい創出につなげていくため、年中無休とします

### 駐車場

- 駅及び駅周辺利用者の利便性の確保のため、自動化により、24時間営業、年中無休とします

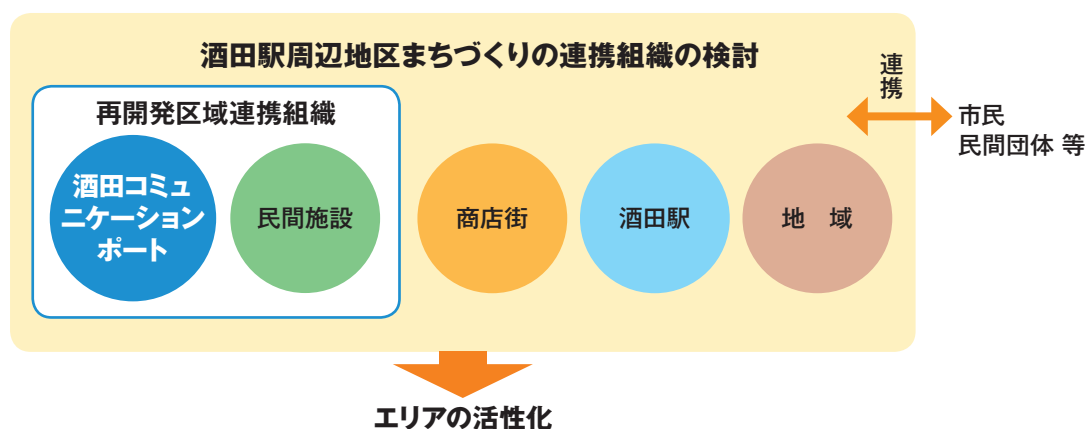


(酒田コミュニケーションポート開館時間等の検討イメージ)

施設区分	開館時間		休館・休業日
	月～土	日、祝	
ライブラリーセンター	9:00～21:00	9:00～19:00	毎週1日、図書整理期間6日以内、12/29～1/3
カフェ	9:00～21:00	9:00～19:00	12/31～1/2
観光情報センター	9:00～19:00		12/31～1/2
駐車場	24時間		年中無休
広場	9:00～21:00	9:00～19:00	年中無休

## 民間施設、周辺関係機関等との連携（エリアマネジメント組織の検討）

- 点ではなく面（エリア）でのまちづくりを進めていくため、再開発区域内の民間施設との連携組織や駅前商店街、酒田駅、地域コミュニティ等との連携組織を検討します



## 運営組織

- 限られた人員や財政状況において、全体最適化を図り、利用者への最大のサービス提供を実現していきます
- 酒田コミュニケーションポートだけでなく、周辺エリアを含めてのまちの活性化のための施設運営（エリアマネジメント）という視点を持ちます
- これまでの施設機能ごとに、市組織の各所管課に振り分けるのではなく、所管課を一元化した運営組織による効果的・効率的な運営を検討します
- 複合機能施設という特性から、一体感の醸成が大事であり、セクション主義に陥らない体制を持続的に確保していきます

## 運営形態

- 新しい利用者の掘り起こしや新たなサービスの提供にチャレンジするため、専門性の高い職員を確保し、効率性の高い運営を行います
- 民間の運営ノウハウの導入や図書館ボランティア、観光ガイド協会などの市民団体等との協働を図り、コストパフォーマンスを向上させます

## 事業計画及び評価

- 年度ごとの事業計画を策定します
- 運営に関する適切な指標を選定し、目標を設定します
- 事業計画及び目標の達成状況に関しては、自己評価を行い、評価については、市民公募も想定した運営評価委員会（仮称）で評価し、次年度への事業計画に反映させます

# 人材の確保及び育成

## ◎専門性とホスピタリティのある人材

酒田の玄関口としてふさわしいおもてなしの心で対応します

## ◎新しいことに常にチャレンジする人材

どこにでもあるような施設ではなく、新しいサービスを追求し続け、何度でも来たくなるような体験、出会い、交流を生み出します

## ◎人を大切に作る人材

酒田で学び、働き、住み続ける人を呼び寄せ、育て、つなぎます

# 市民とともに歩み、 成長していく施設づくりを目指して



◎多くの市民に愛され続け、使われ続けるには、組織の持続的な成長が不可欠です

◎時代の流れとともに市民ニーズの変化に的確に反応し、対応できるよう、市民参画型の施設づくりを推進します

# 事業スケジュール

○基本設計 平成28年度～平成29年度

○実施設計 平成29年度

○建設工事 平成30年度～平成31年度

○開館準備 平成31年度～平成32年度

○開館 平成33年4月頃



平成28年7月に事業予定者に選定された西松建設㈱の提案プランのイメージ図であり、今後の事業計画により変更となります。

## 酒田市企画振興部都市デザイン課

〒998-8540 酒田市本町二丁目2番45号

TEL.0234-26-6274

メールアドレス toshi-design@city.sakata.lg.jp

ホームページ <http://www.city.sakata.lg.jp/>